

II 教育の内容

《 II 教育の内容 》

1 【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

平成 21 年度に学科改組等を行った場合は、平成 20 年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

総合生活学科教育課程

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
教養科目	芸術入門	造形美術Ⅰ		○		1	○			4	
		造形美術Ⅱ		○		1	○			6	
		イタリア美術	○			2				10	平成21年度開講なし・単位互換科目
		舞台芸術	○			2	○			53	
		音楽		○		1	○			2	
		世界の文学	○			2	○			11	
		異文化コミュニケーション	○			2	○			88	
		日本文学Ⅰ	○			2	○			17	
		日本文学Ⅱ	○			2			○	5	
	日本の伝統文化	○			2	○			10		
	女性学入門	教育学	○			2	○			15(2)	
		健康科学	○			2	○		○	84	
		生命科学	○			2			○	40	
		法学	○			2				6	平成21年度開講なし
		心理学	○			2	○			92(2)	
		社会学	○			2	○			24	
		放送大学科目(哲学系)	○			2				0	放送大学単位互換科目
	放送大学科目(自然科学系)	○			2				0	放送大学単位互換科目	
	情報入門	情報リテラシー(コンピュータの活用)		○		1	○		○	121(3)	
		放送大学科目(数理系)	○			2				0	放送大学単位互換科目
	語学入門	英会話		○		1			○	12(2)	
		英語Ⅰ(a)		○		1		○		126(4)	
		英語Ⅰ(b)		○		1		○		125(4)	
		英語Ⅱ(a)		○		1	○			7(2)	
		英語Ⅱ(b)		○		1	○			23	
		フランス語Ⅰ		○		1			○	12	
		フランス語Ⅱ		○		1			○	0	
		中国語Ⅰ		○		1			○	23	
		中国語Ⅱ		○		1			○	4	
		イタリア語Ⅰ		○		1			○	3	
		イタリア語Ⅱ		○		1			○	0	
		スペイン語(放送大学)		○		2				0	放送大学単位互換科目
		ドイツ語(放送大学)		○		2				0	放送大学単位互換科目
		韓国語(放送大学)		○		2				0	放送大学単位互換科目
		日本語入門	○			2	○			37	
		外国語コミュニケーション	○			2	○			13(2)	
		海外語学演習		○		3	○			0	ハワイ大学語学研修
		神戸学入門	神戸学	○			2	○			87
	神戸の歴史学		○			2	○			0	隔年開講・20年度開講なし
	生活学入門	食事学	○			2	○		○	10	
		食品科学	○			2	○			85	
		食文化Ⅰ		○		1	○			17	
食文化Ⅱ(料理と食文化)		○			2			○	21		
日本の生活文化		○			2	○			24		
ボランティアの実践			○		1	○			0		
日本国憲法		○			2			○	24(2)		
生涯スポーツ			○		2	○		○	38(6)		
放送大学科目(生活学系)	○			2				0	放送大学単位互換科目		

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
必修科目	家政学概論	○			2				○	125	
	家庭経営 (家庭経済を含む)	○			2				○	125	
	学問へのアプローチ		○		1		○	○	○	127	
	総合生活演習		○		2		○			137 (15)	
学科基礎科目	被服学	○			2		○			40 (2)	
	食品学	○			2		○			72 (2)	
	住居学	○			2		○			44 (2)	
	情報社会論	○			2			○		87	
	被服構成基礎実習			○	1		○		○	36 (2)	
	調理学基礎実習			○	1		○			56 (2)	
	住居デザイン基礎実習			○	1		○			19 (2)	
	情報基礎演習		○		1		○			66 (2)	
選択科目	日本語表現	○			2		○			54	
	コミュニケーション技術論	○			2		○			65	
	数学入門	○			2		○			2	
	デザイン論	○			2		○			91	
	調理学	○			2				○	64	
	家族関係	○			2		○			108	
	色彩学	○			2			○		60	
基礎デザイン	造形学	○			2		○			31	
	デッサン演習		○		1		○			29	
	CG演習I (グラフィック)		○		1		○			18	
	CG演習II (ビジネス文書)		○		1		○			44 (2)	
	ブライダルコーディネート論	○			2				○	—	
	ブライダルコーディネート演習		○		1				○	—	
	メイクアップ論	○			2				○	—	
	メイクアップ演習		○		1				○	—	
	服飾工芸演習		○		1				○	9	
	洋裁基礎演習		○		1				○	11	
	パターンメイキング論	○			2				○	11	
	被服材料学	○			2		○			58	
	繊維学実験法	○			2		○			71	
	被服構成実習 (洋裁)			○	1				○	8	
	被服構成実習 (和裁)			○	1				○	9	
アパレル縫製実習			○	1				○	1		
アパレルCAD演習		○		1				○	3		
ファッションデザイン論	○			2				○	43		
染色学	○			2		○			54		
ファッションビジネス論	○			2				○	47		
被服製作実習			○	1				○	2		
デザイングループ	住まいの法規	○			1				○	16	
	住まいの施工	○			1				○	—	新設
	住まいの構法	○			2		○			—	新設
	インテリアコーディネート概論	○			2		○			32	
	インテリア設計製図			○	1		○			—	新設
	建築CAD演習		○		1				○	19	
	インテリアデザイン論	○			2				○	43	
	住居計画学	○			2				○	45	
	住宅デザイン実習 I			○	1		○			21	
	住宅デザイン実習 II			○	1		○			15	
住まいの構造	○			2				○	—	新設	
住まいの材料	○			2				○	—	新設	
健康グループ	製パン・製菓実習			○	1		○			42 (2)	
	調理学実習 I			○	1		○			49 (2)	
	調理学実習 II			○	1				○	41	
	栄養学	○			2				○	43	
	健康管理概論	○			2				○	72	
	食品加工学	○			2		○			71	
	食品学実験			○	1				○	30	
	フードコーディネート論	○			2		○		○	49	
	ライフステージ栄養学	○			2				○	32	
	食品加工学実習			○	1		○			24	
	食品衛生学	○			2				○	48	
	フードスペシャリスト論	○			2				○	26	
家庭科指導法 (中)	○			2				○	2		

II 教育の内容

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼担	兼任			
総合生活学科専門科目	健康グループ	介護概論	○			2	○			35		
		児童福祉概論	○			2		○		46		
		社会福祉概論	○			2	○			50		
		社会福祉援助技術論	○			2	○			13		
		地域福祉	○			2	○			54		
		老人福祉概論	○			2	○			14		
		発達	保育学(実習を含む)	○		○	2			○	42	
			生涯発達論	○			2			○	57	
			カウンセリング論	○			2			○	46	
		情報	情報科学Ⅰ	○			2	○			23	
			情報科学Ⅱ	○			2	○			5	
			生活情報技術		○		1	○			32	
			データベース技術論	○			2	○			12	
			コンピュータと情報発信	○			2	○			13	
			コンピュータネットワーク概論	○			2	○			9	
	情報・ビジネスグループ	秘書学概論	○			2	○			75		
		旅行ビジネス論	○			2	○			61		
		環境保全論	○			2			○	54		
		観光ビジネス論	○			2	○			41		
		消費生活論	○			2			○	40		
		秘書実務Ⅰ		○		1	○			64(2)		
		秘書実務Ⅱ		○		1	○			64(2)		
		ビジネスコミュニケーション	○			2	○			34		
		旅行業実務論	○			2	○			23		
		社会調査論	○			2			○	37		
		現代企業論	○			2			○	65		
		国際関係論	○			2			○	28		
		マーケティング論	○			2			○	66		
		言語と文化	実践日本語表現Ⅰ(話しことば)	○			2	○			33	
			実践日本語表現Ⅱ(論文)	○			2	○			44	
	総合英語Ⅰ		○			2	○			13		
	総合英語Ⅱ		○			2	○			6		
	日本文化論		○			2	○			39		
	生活設計		○			2			○	56		
	国際文化論		○			2	○			24		
	日本語学入門		○			2	○			29		
	人間関係論		○			2	○			73		
	教育の方法・技術		○			2	○			1		
	教職に関する科目		教職原論	○			2	○			2	
			教育原理(教育史及び社会的、制度的又は経営的事項を含む)	○			2			○	2	
			教育心理学	○			2	○			1	
			教育課程論	○			2	○			4	
			道徳指導法	○			2			○	4	
		特別活動指導法	○			2			○	4		
		生徒指導論(進路指導を含む)	○			2			○	3		
教育相談の理論・方法(カウンセリングを含む)		○			2			○	3			
総合演習Ⅰ			○		1	○			1			
総合演習Ⅱ			○		1	○			4			
教育実習指導			○		1	○			1			
教育実習				○	4	○			4			
教育法規		○			2			○	3			
教育史		○			2			○	1			

食物栄養学科教育課程

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考		
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任				
教養科目	芸術入門	造形美術Ⅰ		○			1	○			15		
		造形美術Ⅱ		○			1	○			13(2)		
		イタリア美術	○				2				4	平成21年度開講なし	
		舞台芸術	○				2	○			60		
		音楽		○			1	○			9		
		世界の文学	○				2	○			48		
		異文化コミュニケーション	○				2	○			0		
		日本文学Ⅰ	○				2	○			22		
		日本文学Ⅱ	○				2			○	0		
	日本の伝統文化	○				2	○			19			
	女性学入門	教育学	○				2	○			23		
		健康科学	○				2	○		○	53		
		生命科学	○				2			○	3		
		法学	○				2				6	平成21年度開講なし	
		心理学	○				2	○			106 (2)		
		社会学	○				2	○			1		
		放送大学科目 (哲学系)	○				2				0	放送大学単位互換科目	
		放送大学科目 (自然科学系)	○				2				0	放送大学単位互換科目	
	情報入門	情報リテラシー (コンピュータの活用)		○			1	○		○	178(5)		
		放送大学科目 (数理系)	○				2				0	放送大学単位互換科目	
	語学入門	英会話		○			1			○	6		
		英語Ⅰ (a)		○			1		○		196(5)		
		英語Ⅰ (b)		○			1		○		195(5)		
		英語Ⅱ (a)		○			1		○		75(2)		
		英語Ⅱ (b)		○			1		○		11(2)		
		フランス語Ⅰ		○			1			○	14		
		フランス語Ⅱ		○			1			○	5		
		中国語Ⅰ		○			1			○	17		
		中国語Ⅱ		○			1			○	2		
		イタリア語Ⅰ		○			1			○	10		
		イタリア語Ⅱ		○			1			○	3		
		スペイン語 (放送大学)		○			2				0	放送大学単位互換科目	
		ドイツ語 (放送大学)		○			2				0	放送大学単位互換科目	
		韓国語 (放送大学)		○			2				0	放送大学単位互換科目	
		日本語入門	○				2	○			47		
		外国語コミュニケーション	○				2	○			39		
海外語学演習			○			3	○			0	ハワイ大学語学研修		
神戸学入門		神戸学	○				2	○			59		
		神戸の歴史学	○				2	○			0	隔年開講-20年度開講なし	
生活学入門	食事学	○				2	○		○	63			
	食品科学	○				2	○			126			
	食文化Ⅰ		○			1	○			31			
	食文化Ⅱ (料理と食文化)	○				2			○	10			
	日本の生活文化	○				2	○			26			
	ボランティアの実践		○			1	○			4			
	日本国憲法	○				2			○	49(2)			
	生涯スポーツ		○			2		○	○	184(5)			
放送大学科目 (生活学系)	○				2				0	放送大学単位互換科目			
食物栄養学科専門科目	栄養士資格に関する科目 専門基礎科目	公衆衛生学	○				2			○	196(5)		
		社会福祉論	○				2			○	195(5)	科目等履修生1	
		解剖学	○				2	○			184(5)		
		生化学	○				2	○		○	177(5)		
		生理学	○				2			○	177(5)		
		臨床医学概論	○				2			○	196(5)	科目等履修生1	
		基礎食品学	○				2		○		184(5)		
		応用食品学	○				2		○	○	195(5)	科目等履修生1	
		食品衛生学	○				2			○	184(5)		
		解剖生理学実習			○			1			○	195(5)	
		生化学実験			○			1				194(5)	
		食品学実験Ⅰ			○			1				185(5)	
食品衛生学実験			○			1				187(5)			

II 教育の内容

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考		
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼担	兼任				
食物栄養学科 栄養士資格に関する科目	専門科目 I	基礎栄養学	○			2		○			184(5)		
		応用栄養学	○				2	○			183(5)		
		臨床栄養学	○				2	○			195(5)	科目等履修生1	
		健康食育論	○				2	○			196(5)	科目等履修生1	
		栄養教育・指導論	○				2			○	184(5)		
		栄養カウンセリング論	○				2			○	177(5)	科目等履修生1	
		栄養情報処理演習		○			1			○	177(5)		
		公衆栄養学	○				2			○	196(5)		
		給食計画実務論	○				2	○			178(5)		
		調理学	○				2		○		184(5)		
		給食運営管理実習			○		1			○	185(5)		
		校外実習			○		1		○		196		
		栄養教育・指導論実習 I			○		1			○	177(5)		
		栄養教育・指導論実習 II			○		1			○	196(5)		
		栄養学実習 I			○		1	○		○	195(5)	科目等履修生1	
		栄養学実習 II			○		1	○		○	196(5)		
		臨床栄養学実習			○		1	○			196(5)		
	調理学実習 I			○		1	○			184(5)			
	調理学実習 II			○		1	○		○	177(5)			
	クリエーティブクッキング			○		1	○			195(5)	科目等履修生2		
	専門科目 II	食環境論演習		○			1	○			55		
		応用微生物学	○				2	○			54		
		食品学実験 II (基礎化学実験を含む)			○		1	○			—	名称変更	
		食品加工学	○				2		○		106		
		フードスペシャリスト論	○				2	○			89		
		フードコーディネーター論	○				2			○	90		
		食料経済 (食品流通を含む)	○				2			○	89		
		食品機能論	○				2	○			15		
		NR (栄養情報担当者) 論	○				2			○	20		
		栄養に係る教育および教職に関する科目	学校栄養教育論	○				2			○	23	科目等履修生1
			教職原論	○				2			○	9	
			教育原理 (教育史及び社会的、制度的又は経営的事項を含む)	○				2	○			23	
			教育心理学	○				2	○			9	
教育課程論			○				2	○			15		
教育の方法・技術 (道徳・特別活動の内容を含む)			○				2	○			9		
生徒指導論 (教育相談の理論・方法を含む)			○				2	○			9		
総合演習 I			○			1	○	○		9			
総合演習 II			○			1	○			15			
栄養教育実習指導			○			1	○			9			
選択科目 III	やさしい生物	○				2			○	109			
	やさしい化学	○				2			○	169(2)			
	スポーツ栄養学	○				2			○	35			
	食品加工学実習			○		1		○		—	新設		

幼児教育学科教育課程

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
教養科目	芸術入門	造形美術Ⅰ		○		1	○			0	
		造形美術Ⅱ		○		1	○			0	
		イタリア美術	○			2				0	平成21年度開講なし
		舞台芸術	○			2	○			4	
		音楽		○		1	○			4	
		世界の文学	○			2	○			0	
		異文化コミュニケーション	○			2	○			62	
		日本文学Ⅰ	○			2	○			2	
		日本文学Ⅱ	○			2			○	0	
	日本の伝統文化	○			2	○			0		
	女性学入門	教育学	○			2	○			70	
		健康科学	○			2	○		○	0	
		生命科学	○			2			○	2	
		法学	○			2				11	平成21年度開講なし
		心理学	○			2	○			8	
		社会学	○			2	○			0	
		放送大学科目(哲学系)	○			2				0	放送大学単位互換科目
		放送大学科目(自然科学系)	○			2				0	放送大学単位互換科目
		情報入門	情報リテラシー(コンピュータの活用)		○		1	○		○	79(2)
	放送大学科目(数理系)		○			2				0	放送大学単位互換科目
	語学入門	英会話		○		1			○	4	
		英語Ⅰ(a)		○		1		○		77(2)	
		英語Ⅰ(b)		○		1		○		77(2)	
		英語Ⅱ(a)		○		1	○			0	
		英語Ⅱ(b)		○		1	○			0	
		フランス語Ⅰ		○		1			○	2	
		フランス語Ⅱ		○		1			○	0	
		中国語Ⅰ		○		1			○	0	
		中国語Ⅱ		○		1			○	0	
		イタリア語Ⅰ		○		1			○	0	
		イタリア語Ⅱ		○		1			○	0	
		スペイン語(放送大学)		○		2				0	放送大学単位互換科目
ドイツ語(放送大学)			○		2				0	放送大学単位互換科目	
韓国語(放送大学)			○		2				0	放送大学単位互換科目	
日本語入門		○			2	○			0		
外国語コミュニケーション		○			2	○			60(2)		
海外語学演習			○		3	○			0	ハワイ大学語学研修	
神戸学入門		神戸学	○			2	○			6	
		神戸の歴史学	○			2	○			0	隔年開講-20年度開講なし
生活学入門	食事学	○			2	○		○	0		
	食品科学	○			2	○			2		
	食文化Ⅰ		○		1	○			0		
	食文化Ⅱ(料理と食文化)	○			2			○	1		
	日本の生活文化	○			2	○			0		
	ボランティアの実践		○		1	○			2		
	日本国憲法	○			2			○	87(2)		
	生涯スポーツ		○		2	○		○	60(2)		
放送大学科目(生活学系)	○			2				0	放送大学単位互換科目		
幼児教育学科専門科目	教科に関する専門科目	○			2			○	70		
	国語	○			2	○			54		
	算数	○			2	○			64		
	生活	○			2	○			64		
	音楽(器楽A)			○	1	○		○	79(3)	他学科履修1	
	音楽(器楽B)		○		1	○		○	59(2)	他学科履修11	
	音楽(歌唱)			○	1	○		○	78(2)	科目等履修生1	
	図画工作			○	1	○			—	新設	
体育		○		1	○			—	新設		

II 教育の内容

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
教職に関する専門科目	教職原論	○			2		○			79(2)	他学科履修2
	教育原理 (教育史及び社会的、制度的又は経営的事項を含む)	○			2		○			79	他学科履修2
	教育心理学	○			2			○		81	他学科履修2
	幼稚園教育課程論	○				2	○			77	他学科履修2
	保育内容の指導法 (健康)		○			1	○			—	新設
	保育内容の指導法 (人間関係)		○			1	○			—	新設
	保育内容の指導法 (環境)		○			1	○			—	新設
	保育内容の指導法 (言葉)		○			1	○			—	新設
	保育内容の指導法 (表現)		○			1	○			—	新設
	保育内容の指導法A		○			1	○			—	新設
	保育内容の指導法B		○			1	○			—	新設
	保育内容の指導法C		○			1	○			—	新設
	教育の方法・技術	○				2	○			78	他学科履修1
	幼児理解の理論・方法	○				2	○			78(2)	他学科履修2
	教育相談の理論・方法 (カウンセリングを含む)	○				2			○	60	他学科履修11
	総合演習 I		○			1		○		78(4)	他学科履修1
	総合演習 II		○			1		○		60(5)	他学科履修11
	教育実習指導		○			1		○		78(2)	他学科履修1
	教育実習				○	4		○		59	他学科履修11
	教職関連科目	教育情報処理演習		○			1		○	78(2)	他学科履修1
	学科特別演習		○		2		○		60(13)		
幼児教育学科専門科目	社会福祉	○				2	○			—	新設
	社会福祉援助技術 I		○			1	○			—	新設
	社会福祉援助技術 II		○			1	○			—	新設
	児童福祉	○				2	○			34	科目等履修生3
	保育原理 I	○				2	○			30	科目等履修生3
	保育原理 II	○				2	○			—	新設
	養護原理	○				2	○			—	新設
	発達心理学	○				2			○	—	新設
	小児保健 I	○				2			○	—	新設
	小児保健 II	○				2			○	—	新設
	小児保健実習			○		1		○		—	新設
	小児栄養 I		○			1			○	—	新設
	小児栄養 II		○			1			○	—	新設
	精神保健	○				2			○	—	新設
	家族援助論	○				2	○			—	新設
	保育内容総論		○			1	○			72(2)	
	乳児保育 I		○			1	○			—	新設
	乳児保育 II		○			1	○			—	新設
	障害児保育		○			1	○			—	新設
	養護内容		○			1	○			—	新設
	保育実習事前指導				○	1	○			—	新設
	保育実習 I (保育所)				○	2	○			—	新設
	保育実習 I (施設)				○	2	○			—	新設
	保育者論	○				2	○			—	新設
	保育制度論	○				2	○			—	新設
	食育論 (子どもと食生活)	○				2			○	30	科目等履修生3
	食生活基礎技術演習		○			1		○		—	新設
	食生活指導研究		○			1	○	○		—	新設
	保育カウンセリング	○				2			○	—	新設
	子どもの遊びと文化	○				2	○			—	新設
	伴奏法		○			1	○		○	—	新設
	造形表現研究		○			1	○			38(2)	
保育実習 II				○	2	○			—	新設	
保育実習 III				○	2	○			—	新設	

## 専攻科保育専攻教育課程

(平成 21 年 5 月 1 日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任			
保育士に関する専門科目	社会福祉	○			2		○			42		
	社会福祉援助技術Ⅰ		○		1		○			42		
	社会福祉援助技術Ⅱ		○		1		○			41		
	子ども家庭福祉	○				2	○			1		
	家族援助論	○			2		○			42		
	家族援助論演習		○			1			○	1		
	保育者論	○				2	○			38		
	保育所保育計画論	○				2			○	34		
	保育原理Ⅱ	○				2		○		42		
	養護原理	○				2		○		42		
	発達心理学	○				2			○	42		
	小児保健Ⅰ	○				2			○	42		
	小児保健Ⅱ	○				2			○	41		
	小児保健実習				○	1			○	41		
	小児栄養Ⅰ		○			1			○	42		
	小児栄養Ⅱ		○			1			○	41		
	食生活基礎技術演習		○				1		○	42		
	食生活指導研究		○				1	○	○	5		
	小児栄養学実習				○		1		○	42		
	精神保健	○				2			○	41		
	保育カウンセリング	○					2		○	21		
	乳児保育Ⅰ		○			1		○		42		
	乳児保育Ⅱ		○			1		○		41		
	乳児の遊びと生活		○				1		○	7		
	障害児保育		○			1		○		42		
	養護内容		○			1		○		41		
	伴奏法		○				1	○		○	16	
	子どもの文化		○				1	○			0	
	保育実習事前指導				○	1		○			42	
	保育実習Ⅰ(保育所)				○	2		○			41	
保育実習Ⅰ(施設)				○	2		○			42		
保育実習Ⅱ				○		2	○			41		
保育実習Ⅲ				○		2	○			0		

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

## 1) 教養教育の取組み

女性として知性と感性をバランスよく備え、豊かな創造性を高めることを目標に、平成15年度から「芸術入門」「女性学入門」「情報入門」「語学入門」「神戸学入門」「生活学入門」の6分野からなる新しい発想による教養教育を実施している。学生が興味をもつ授業内容にするだけでなく、科目の名称や副題にも工夫を凝らしている。

教養科目は、全ての専任教員が担当することを原則にし、不足する科目については放送大学との単位互換により補っている。全学科の学生が学科の枠を超えて受講できるよう時間割上の配慮をしているが、学生は全ての教養科目の選択はできない状況に

## II 教育の内容

あり、平成18年度からは神戸女子大学との単位互換、平成21年度からはポートアイランドで隣接する4大学間で単位互換を実施し、教養科目の更なる充実に努めている。

### 2) 総合生活学科における専門教育の内容

総合生活学科は、生活に関して幅広く学ぶため、「デザイン」「健康」「情報・ビジネス」の3分野に関わる多岐にわたる科目を配置しているのが特色である。必修科目は1年次前期の学科基礎の3科目と2年次の「総合生活演習」に限定し、残りを選択科目とし、学生が興味・関心に応じて学修できるよう配慮している。特に1年次前期の必修科目「学問へのアプローチ」では、大学における学問研究の基本的な考え方と方法を教え、主体的な学修のための基盤をつくっている。その上で1年次前期に基礎的内容の科目を配置し、1年次後期以降は専門性の高い科目を受講できるようにしている。講義、演習、実験・実習の科目のバランスにも配慮し、講義で学んだ内容を実践し知識や技術を体得できるようにしている。

### 3) 食物栄養学科における専門教育の内容

専門科目について、同じ科目を複数教員が担当する授業やオムニバス授業では、担当者による理解度や到達度に差が出ないように教員間の連絡調整を密にしている。また科目間の授業内容を整理し、講義科目から実験・実習科目へ、基礎から応用へと階層的な学修展開を行っている。

授業形態のバランスは、栄養士資格に関する科目33科目のうち、講義形式は18科目、演習及び実験・実習形式は15科目で、栄養士以外の資格取得に関する科目及び選択科目24科目については、講義形式が17科目、演習及び実験・実習形式が7科目となっている。教員配置については、栄養士資格に関する科目のうち、16科目を専任教員が担当し、5科目は専任教員と兼任教員の連携により授業を行っている。また、栄養士以外の資格取得に関する科目及び選択科目については、専任教員が14科目、兼任教員及び兼任教員が10科目をそれぞれ担当している。

### 4) 幼児教育学科における専門教育の内容

専門科目は、教科に関する専門科目8科目、教職に関する科目19科目、教職関連科目2科目、保育士に関する専門科目34科目の計63科目を開講している。そして、1年次前期に教員や保育士に必要な基礎理論科目を必修とし、1年次後期から2年次前期に指導法や実技・演習科目を展開して実習を充実させる系統的な教育課程を編成している。

必修科目には、今日的課題である「環境」「情報」「福祉・少子高齢化」「伝統文化」「異文化交流」に関して、教員として必要な資質を身に付ける「総合演習」と「学科特別演習」を開講している。また専門科目63科目中、50科目を専任教員が指導し、4科目を専任教員の主導による兼任教員との連携で指導している。専任教員が必修の全科目を含めた教職関係の専門分野を一貫して教授することは、2年間という短い教育期間に実践力のある教員や保育士を養成していくために望ましいと考えている。

### 5) 専攻科保育専攻における専門教育の内容

児童福祉施設における保育士としての専門性を高める科目（専門科目）として、子育て・親育ちを支援する「保育カウンセリング」「子ども家庭福祉」や保育の多様なニ

ーズに対応する「家族援助論」「乳児の遊びと生活」「子どもの文化」「保育所保育計画論」を開講している。また本学の食物栄養学科との連携により食育を体系的に学修する「小児栄養学実習」「食育論」「食生活基礎技術演習」「食生活指導研究」は、本専攻科独自の特色である。地域との交流による「キッズ・キッチン」「わくわく Farm(菜園)」「一時託児ルーム」「動物介在レクリエーション」も教育的実践力を高める特色あるプログラムとなっている。

◆添付資料1(再掲)「2009 学生便覧 CAMPUS GUIDE」(pp.46-96)参照。

2(再掲)「2009 授業計画書・シラバス」参照。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。  
また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

1) 当該教育課程の履修により取得が可能な免許・資格等

- |         |  |
|---------|--|
| 総合生活学科  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校教諭二種免許状(家庭)</li> <li>・ フードスペシャリスト受験資格</li> <li>・ 二級建築士受験資格(実務経験2年)</li> <li>・ 木造建築士受験資格(実務経験2年)</li> <li>・ インテリアプランナー登録資格</li> <li>・ 秘書士資格</li> <li>・ レクリエーション・インストラクター資格(平成20年度入学以前)</li> </ul> |
| 食物栄養学科  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養士免許証</li> <li>・ 栄養教諭二種免許状</li> <li>・ フードサイエンティスト資格</li> <li>・ フードスペシャリスト受験資格</li> <li>・ 栄養情報担当者(NR)資格</li> </ul>  |
| 幼児教育学科  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園教諭二種免許状</li> <li>・ 保育士資格(平成21年度入学以降)</li> <li>・ 小学校教諭二種免許状(平成20年度入学以前)</li> </ul>  |
| 専攻科保育専攻 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士資格</li> </ul>  |

2) 教育課程外の免許・資格等

免許・資格等の名称	履 修 方 法
日商パソコン検定	「生活情報技術」の授業で学習した後、日本商工会議所の認定を受けた本学で受検する。共同利用のパソコンを使用して事前に個別の指導を行っている。
話しことば検定2級、3級	「実践日本語表現I」の授業で学習した後、10月の「話しことば検定特別対策講座」を受講し、12月に受検する。
家庭料理検定3級	調理学、調理学実習、食品学、栄養学等についての試験対策講座を7月に受講した後、9月に受検する。
国内旅行業務取扱管理者(国家試験)	受験希望学生を対象とした特別対策講座を夏季休業中に受講した後、9月に受験する。
秘書技能検定2級	キャリアサポートセンターが実施する対策講座を受講した後、受検する。
訪問介護員資格1級	2級資格取得学生を対象にした244時間の対策講座を全て受講し、達成度試験に合格すれば資格を取得する。
障害者(児)居宅介護従事者資格 全身性障害者(児)移動介護従事者資格 視覚障害者(児)移動介護従事者資格	夏季休業中に開催する養成研修に参加して修了証を取得する。当該分野の専門教員が学生のサポートを行っている。
幼稚園教諭二種免許状	総合生活学科の学生が幼児教育学科の授業科目(他学科連携科目)を履修して必要単位を修得する。

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等どのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

入学時に配付する「学生便覧」に「履修の案内」の頁を設け、授業科目、時間数と単位、卒業要件単位、履修届、他学科の科目履修、再履修、授業・授業時間、休講、臨時休講等、補講、集中講義、欠席・忌引・遅刻・早退、単位の認定と試験、成績、休学等、休講等の電話照会の禁止、について詳しく記載されている。教育課程についても、学生が理解しやすいように詳細に記載されている。

また、グループ別に設定された多様な選択科目を履修する総合生活学科においては、学生の興味・関心と将来の進路に合わせた履修が可能になるよう、年度当初のオリエンテーションや履修登録の際に、クラス担任・副担任が「学生便覧」と履修モデル（例）を参考にしながら個別の履修相談に応じている。学生は履修科目を決定した後、各自がWeb入力で履修登録をしている。その際、教務課職員が複数で入力作業の支援を行っている。

◆添付資料1（再掲）「2009 学生便覧 CAMPUS GUIDE」（pp. 36-45）参照。

◆参考資料7「総合生活学科の履修モデル（例）」参照。

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

平成 21 年度 総合生活学科入学生

		卒業要件単位		中学校教諭 二種免許状 (家庭)	二級建築士・ 木造建築士 受験資格	インテリア プランナー 登録資格	フードスペ シャリスト 受験資格	秘書士資格
教養科目		12 単位 (必修 2 単位を含む)		7 単位	—	—	—	20 単位以上 (必修 4 単 位を含む)
専門科目	学科基礎科目	16 単位以上 (必修 7 単位、 選択必修科 目 3 単位以 上を含む)	46 単位以上	21 単位	3 単位	21 単位以上 (必修 2 単 位を含む)	5 単位	
	グループ 選択科目	30 単位以上 (主グループ 18 単位以上 を含む)			18 単位		16 単位以上 (必修 16 単 位を含む)	
教養科目又は専門科目		4 単位以上		—	—	—	—	
教科又は教職に関する科目		—		4 単位以上	—	—	—	—
教職に関する科目		卒業要件に 含まない		23 単位	—	—	—	—
自由科目				—	—	—	—	—
合 計		62 単位以上		55 単位以上	21 単位	21 単位以上	21 単位以上	20 単位以上

\*免許・資格取得のためには、卒業要件単位を満たさなければならない。

## 平成 21 年度 食物栄養学科入学生

		卒業要件単位	栄養士 免許証	栄養教諭 二種免許状	フードサイ エンティスト 資格	フードスペ シャリスト 受験資格	NR(栄養 情報担当 者) 資格	
教養科目		12 単位以上 (必修 4 単 位を含む)	—	7 単位	—	—	—	
専門科目	栄養士資格に 関する科目	専門基礎科目	50 単位以上 (必修 9 単 位を含む。「教 職に関する 科目」16 単 位は卒業要件 に含まない。)	51 単位	51 単位	11 単位	7 単位	
		専門科目 I				3 単位	7 単位	
	栄養士以外の 資格に関する科目	専門科目 II		—	—	6 単位	7 単位	11 単位
	選択科目	栄養に係る教育 及び教職に 関する科目		—	18 単位	—	—	—
合 計		62 単位	51 単位	76 単位以上	20 単位	21 単位	62 単位	

\*免許・資格取得のためには、卒業要件単位を満たさなければならない。

## 平成 21 年度 幼児教育学科入学生

		卒業要件単位	幼稚園教諭二種免許状	保育士資格
教養科目		12 単位以上 (必修 2 単 位を含む)	7 単位	7 単位以上
専門科目	教科に 関する 専門科目	50 単位以上 (必修 9 単 位、選択必修 9 単位を含む)	4 単位以上	4 単位以上
	教職に 関する 専門科目		29 単位	14 単位
	教職関連科目		1 単位	1 単位
	保育に 関する 専門科目		—	42 単位以上
合 計		62 単位以上	41 単位以上	68 単位以上

\*免許・資格取得のためには、卒業要件単位を満たさなければならない。

## 平成 21 年度 専攻科保育専攻入学生

	修了要件単位	保育士資格
保育士に関する専門科目	36 単位以上	36 単位以上
合 計	36 単位以上	36 単位以上

\*保育士資格取得のためには、本科(初等教育学科)における資格所要科目 38 単位以上を修得していなければならない。

卒業要件単位数と資格取得に必要な単位数については、卒業また就職等に係る重要事項であるため、各学科及び専攻科共に 1 年次生は入学時、2 年次生は年度当初の学科オリエンテーションで特に丁寧に説明し、周知を図っている。その際、卒業後の進路選択に係る資格取得の意義や方法を説明し、それに沿った履修指導をしている。その後、クラス担任・副担任がホームルームで重ねて指導し、学生個別に指導を行っている。前・後期末には、クラス担任・副担任が個人別の履修状況をチェックし、単位修得に遺漏のないようにしている。学納金は、学生便覧に記載されている通り、前・後期の 2 期に分

## II 教育の内容

けて所定の期日までに納入しなければならないことになっている。未納の場合は定期試験の受験資格がなく、単位を取得できないことをオリエンテーション等で周知している。

◆添付資料1(再掲)「2009 学生便覧 CAMPUS GUIDE」参照。

**(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者(学科長、学科主任等。以下「学科長等」という)が記述して下さい。**

### <総合生活学科長>

これまで学科専門科目のうち必修・選択科目、講義・演習・実験・実習科目の配置、3グループ「デザイン」「健康」「情報・ビジネス」の選択の自由度、免許状や資格取得に配慮し、選択科目数や開講期に齟齬が生まれぬよう見直しを行ってきた。現行カリキュラムについても、今後、学生の授業評価や満足度を考慮に入れて改善していく。

### <食物栄養学科長>

平成14年に栄養士法の一部改正が施行され、管理栄養士・栄養士養成に係る教育課程の整備を行った。また、平成16年の食育基本法の成立に対応して食育に関する科目を加え、教育課程を充実させた。今後も、法令を遵守すると共に、社会の変化に対応できる専門性の高い栄養士を養成するために教育課程の改善と充実を図っていく。

### <幼児教育学科長>

平成21年度に、学科名を変更して保育士養成関連科目の大幅な充実を図った。幼稚園免許状と保育士資格を2年間で取得するため教育課程が濃密になるが、時代の要請に応え、福祉や保育・教育等のあらゆる分野からの援助や保護者支援を行うことのできる高い専門性を身に付けた実践的指導力のある保育者を養成するために努力していきたい。

### <専攻科長>

平成21年度より、幼児教育学科において幼稚園教諭二種免許状と保育士資格が取得できるようになった。専攻科保育専攻の教育理念は今後、幼児教育学科に引き継がれる。

## 2【授業内容・教育方法について】

**(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。**

新入学生に「学生便覧」を、また毎年度当初に1、2年次生全員に「授業計画書・シラバス」を配付している。「授業計画書・シラバス」は1年次開講科目と2年次開講科目、また専攻科開講科目について、教養科目と専門科目に分けて掲載している。

配慮していることは、冒頭に授業科目(副題)、卒業必修・選択必修・免許必修等の別、担当者、期間・単位、対象学年、授業の目的・ねらい、授業全体の内容の概要、授業の達成課題(到達目標)、評価方法、テキスト、参考文献、受講生への要望・その他を記載している点である。その上で、全15回の授業計画を記載し、学生が科目の履修内容を理解しやすいよう配慮している。教職に関する科目、栄養士・管理栄養士指定科目、保育

士指定科目、秘書士科目等の資格科目の担当教員には、シラバスに盛り込む事項と内容、具体的な教育目標等を周知し、学科毎に厳密な相互点検をした後に計画を確定している。

◆添付資料2(再掲)「2009 授業計画書・シラバス」参照。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

<総合生活学科長>

学習意欲があって将来の目標が明確な学生は、履修態度もよく、自ら学ぶ力がついている。その一方、学習への動機付けが必要な学生が年々増加している。学業への意欲を喚起するために教員が心掛けているのは、まず授業の改善と工夫である。自主的な学習習慣が身に付いていない学生には、個別に声をかけたり適切な課題を出したりして学修への興味を引き出す努力をしている。そしてホームルームを活用し、クラス担任・副担任が進学希望者と就職希望者共に、能力や可能性を伸ばせるよう個別指導を行っている。

<食物栄養学科長>

学生の履修態度は概ね良好である。ただ一部には、基礎学力が低いために授業内容を理解できず、興味が持てないまま意欲を低下させている状況がある。教員は分かりやすい授業を心掛け、理解が不十分な点を補う必要がある。また個々の学生の実態を常に把握しておく必要がある。卒業後、管理栄養士養成課程に編入希望の学生は入学時より学業に熱心に取り組み、大学編入後も高い成績を維持して国家試験の合格率も高い。就職を希望する学生と共に、学習のモチベーションが更に向上する教育プログラムを構築し、社会で必要な基礎力を身に付けさせることが必要と考えている。

<幼児教育学科長>

本学には伝統的に毎週20分間のホームルームがあり、専任教員であるクラス担任・副担任が学生の履修状況を把握するシステムになっている。具体的な指導としては、授業の欠席が通算して3回に達した学生の情報は該当科目の担当者からクラス担任に伝えられ、クラス担任・副担任は即時に該当学生と面接して欠席の背景要因を調査し、指導している。個人の特別な事情また履修上、特に配慮を要すると判断される場合には、学科会議で専任教員が情報を共有し、学科をあげて早期にフォローアップしている。

<専攻科長>

学生の履修態度は概ね良好であり、授業中の積極的な態度また課せられた課題への熱心な取り組みなど担当教員から高い評価を得ている。本学で開催する公開シンポジウムに参加して積極的に発言するなど、全体として専攻科生に相応しい行動が多くみられ、保育士としての自覚が育っている。保育所・施設実習においては、初等教育学科で体験した幼稚園実習の体験を活かした実践がみられ、各施設から高く評価されている。

### 3 【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

## II 教育の内容

学生による授業評価は従来、学科また科目単位で実施していたが、平成 17 年度に全学的試行を行い、平成 18 年度以降は全学的実施ができています。その運営は F D 委員会が担当し、開講された全科目（講義・演習・実験・実習・実技）について、全担当教員（専任教員及び非常勤教員）に授業評価アンケートの実施を義務づけている。その内容や方法は教授会及び年度当初の非常勤講師連絡会議で依頼し、周知している。

実施方法は、前・後期共に当該科目の授業中に実施し、第 12 週から第 15 週の間学生に授業評価アンケート質問用紙と回答用紙を配付し、回収している。回答用紙の回収と袋詰めは学生の手によって行い、厳正を期している。

集計は、F D 委員会と助手全員が行い、2 台の専用 O C R（光学式文字読取り機）による学内処理をしている。集計結果は、全学的な集計結果は Web と印刷物で通知し、各科目の集計結果（全体平均と各教員のデータをレーダーチャートで示したもの）は印刷物により通知している。学生は全学的な集計結果を Web と掲示で見ることができる。集計結果は、「授業評価アンケートから見た授業改善」をテーマに全教員で研修会を行ったり教授会報告をしたりして、教員の授業改善の資料として活用している。

◆参考資料 8 「2008 年度 授業評価に関するアンケート(質問用紙)」参照。

9 「授業アンケート実施要領（平成 20 年度後期）」参照。

10 「平成 20 年度前期 学生による授業評価アンケート集計結果」参照。

11 「平成 20 年度後期 学生による授業評価アンケート集計結果」参照。

**(2) 短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（F D）活動等）への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。**

F D 活動の推進は F D 委員会が担っている。平成 18 年度からは学生による授業評価アンケートを全学で実施し、平成 19 年度は計 3 回の全体研修会を実施した。第 1 回は「各学科の教育が目ざすもの」、第 2 回は「授業評価アンケートから見た授業改善」、第 3 回は「大学設置基準の改正と『成績評価』」を研修課題にした。平成 20 年度には学内に O C R を導入し、専用マークシートの作成や学内処理システムの構築に時間をかけた。これによりデータの学内処理が可能になり、授業へのフィードバックが迅速になった。平成 21 年度には、この取り組みを活かして教員間の授業公開を行っている。

非常勤講師の F D 活動も重視しており、毎年 4 月に「専任教員・非常勤講師連絡会議」を開催し、本学の教育方針や F D 活動の取り組み、学生指導、教務事務の手続きについて周知すると共に、専任教員との親密な協力体制によって教育の質の向上を図っている。  
<学長>

本学が F D 委員会を組織して全学的な学生による授業評価を実施し、授業改善に積極的に取り組んでいる点を高く評価している。特に授業評価の集計結果を教員に印刷物にして通知するだけでなく、Web と掲示によって学生に周知し、さらにアンケートの分析結果に基づいて授業改善に関わる研修会を恒常的に開催している点は大いに評価できる。

平成 21 年度には、これまでの成果を基にした教員間の授業公開が積極的に行われているが、これにより授業改善の活動がさらに前進するものと思われる。

◆参考資料 12「神戸女子短期大学 FD委員会規程」参照。

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

<総合生活学科長>

専任教員については、関連科目の担当者による打合せ会と毎月の学科会議で共通理解すべき事項について情報交換をして意思疎通を図っている。非常勤講師との意思疎通については、4月に行う専任教員・非常勤講師連絡会議を活用するだけでなく、学科として各非常勤講師の連絡担当教員をきめ、専任教員の側から非常勤講師に個別の連絡をとることにより、日常の連絡調整また教務や学生指導に係る支援体制を整えている。

<食物栄養学科長>

定例の学科会議で授業状況の報告連絡をするだけでなく、教員の専門分野ごとに連絡会をもって意思疎通と調整を行っている。複数教員が担当する同一科目については、授業内容に差が生じないよう配慮することを申し合わせ、シラバスの内容の調整だけでなく、授業進度をみながら日常的な打合わせを行っている。非常勤講師との意思疎通については、4月当初の全学的な専任教員・非常勤講師連絡会議の場を活用している。

<幼児教育学科長>

毎月の学科会議で学生の受講状況や習熟状況を情報交換して教師間の意思疎通を図っている。オムニバス担当者間では、これとは別の打合わせ会をもっている。非常勤講師との連携は4月の専任教員との連絡会議を中心に、学科の方針、学生の実態について情報を共有している。多くの非常勤講師で担当する「音楽（器楽A・B）」等の音楽関連科目については、専任教員と非常勤講師の連絡会を学期の当初、中盤、終盤に開催している。評価に関しては、普段の授業における指導内容、指導方法、音楽表現についての話し合いをベースに、指導の在り方を共通理解しながら評価基準を設定している。

<専攻科長>

毎月の専攻科会議で学生の履修と生活に関する情報交換をし、教員間の共通理解を図っている。授業評価アンケートも全科目で実施して結果を共有している。4月の専任教員・非常勤講師連絡会議には専攻科の科目担当も参加している。シラバスは教員相互に点検し、教育内容の質的充実を図っている。オムニバス科目や担当者が多い実習科目では分野毎にとりまとめ役を置き、授業内容の調整を図っている。

#### 4【特記事項について】

(1) この《II教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

## II 教育の内容

### <全体として>

#### 1) 学外特別講師の招聘制度

全学的な教育改善努力の一つに、学外特別講師の招聘制度がある。各期の通常授業において1コマに限り学外特別講師を招聘することができる。この制度は授業内容をより豊かにすると共に、学問的な専門性を高めるために有効であると考えている。

#### 2) 習熟度別授業の導入

総合生活学科では教養科目の「英語Ⅰ」において授業開講前に実力判定試験を行い、2段階のレベルによる習熟度別授業を実施して、理解度を高めると共にレベルアップの意欲が高まるよう配慮している。

#### 3) 他大学との単位互換制度

放送大学、神戸女子大学またポートアイランド内に隣接する4大学が単位互換協定を結び、学生が多様な科目を学べるようにしている。

#### 4) 海外研修制度

州立ハワイ大学と姉妹提携を結んでおり、希望者はハワイ大学で実施する1ヶ月間の研修に参加できるようになっている。インターチェンジプログラムを通してハワイ大学の学生と交流の時間が確保されており、言語と異文化並びに国際理解に対する意識を高める内容となっている。研修修了者には「海外語学演習」3単位が与えられる。

#### 5) 教養科目の女性学入門

豊かな人間性と女性として必要な教養を育むために、教養科目に女性学入門の分野を設けている。また日常生活の中で明るい挨拶と返事の励行を指導すると共に、マナーの向上や女性の内面的な充実を図る指導を全教員が協同で行っている。

### <総合生活学科>

#### 1) 国際理解教育

専門科目では情報・ビジネスグループに「言語と文化」の分類があり、「国際文化論」「総合英語Ⅰ・Ⅱ」の科目を設けている。また教養科目として多種の外国語科目を設け、文化及び語学学習を通して国際理解を深めることを目指している。

#### 2) 特別講師制度

調理関係の実習では菓子、パン、チョコレート等、神戸の特色のある専門職人を積極的に起用し、プロの技や心得を直接学びとる機会を設けている。

#### 3) 自己発見レポート

新入生の学修指導と進路指導の一環として、民間機関作成の「自己発見レポート」を採用している。これは自己発見と自己啓発の契機になり、将来の目的を模索し、短大での学習の方向を見つけ、適切な進路選択をするのに役立っている。検査結果は学生本人に返却し、クラス担任は個別のデータを基に学生との懇談と指導を行っている。

### <食物栄養学科>

#### 1) 学科企画行事について

毎年2月の2日間で、学科企画行事を実施している。平成20年度は1年次生を対象に「校外実習体験談発表会」と「神戸女子大学を中心とした編入説明会」を実施した。

2年次生の神戸女子大学編入内定者には卒業までの期間に編入後の管理栄養士国家試

験対策についての説明会を実施し、卒業後のサポート体制を整えている。

2) 管理栄養士国家試験対策講座の実施

毎年度、後期の土曜日に卒業生及び管理栄養士養成課程への編入学生や管理栄養士を目指す1年次生を対象に国家試験対策講座を開講している。専任教員により、ほぼ全教科の講義を実施している。各科目180分という限られた実施であり、仕事をしながら受講する卒業生のために、電子メールでの質問と回答も行っている。

<幼児教育学科>

1) 情報・メディア教育の充実

1年次前期に教養科目の「情報リテラシー」、1年次後期に教職関連科目の「教育情報処理演習」を開講している。どちらも教員免許取得希望者の必修科目で、情報基礎教養と共に教育現場での事務処理や教材研究の基礎知識・技能の充実を図っている。

2) 学修成果を活かした社会貢献と職場体験

日頃の学修成果を活かした社会的貢献と自らの進路を考える機会にすることを目的として、教育関係機関での職業体験を実施している。

①小学校との交流

スクールサポーターとして、授業の空き時間に小学校に出かけ、教員の教材づくりの手伝いや事務処理の補助、授業での子どもたちの学習の支援に取り組んでいる。  
(神戸市立港島小学校・春日野小学校・御影北小学校・魚崎小学校)

②児童館との交流

夏休みに神戸市立の児童館に出かけ、指導員の補助として、保護者支援や学童保育等の活動の手伝いに参加している。(神戸市立兵庫児童館・港島児童館)

③野外活動での交流

兵庫県の小学校の自然学校のジュニアリーダーとして参加し、子どもたちの野外活動の補助を行っている。(神戸市立こうべ小学校・南落合小学校)

④幼稚園との交流

幼稚園と交流して、わくわく Farm、エプロンシアター公演、ペープサート公演、絵本の読み聞かせ、預かり保育ボランティアを行っている。地域の集会室では子育て支援に協力し、乳幼児との触れ合い体験をしている。(神戸市立港島幼稚園・おしんべ幼稚園・いかわ幼稚園他)

<専攻科保育専攻>

専攻科では「幼児教育者としての素養、食育、地域への実践力」を特色として、高い専門性を身に付けた幼稚園教員と保育士を目指している。特に神戸市との連携を重視して幼児教育学科の上記①～④の活動に参画し、食育シンポジウムや預かり保育ボランティアでは専攻科生が中心的役割を担って活動している。(杉の子保育園他)

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅱ教育の内容》の評価項目や評価の観点求められることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

該当なし。